

戦後公共図書館で追放された図書の主題傾向

Purged Books Subject in the Kagoshima Prefectural Library Just after World War II

川戸 理恵子
Rieko Kawato

鹿児島女子短期大学

鹿児島県立図書館では「追放図書」と称するコレクションが所蔵されている。それは第二次世界大戦直後に軍国主義関連図書等が自主規制やGHQによる宣伝用刊行物没収の影響により各地の図書館から排除された時期に、同館が別置した約700種とされる図書群である。このコレクションは『追放図書目録』としてリスト化されている。この『追放図書目録』に関し、鹿児島県立図書館での現在の所蔵状況を確認するため、1993年発行の目録をもとに同館OPACでの検索・照合を行った。その結果のうち、分類記号に着目し、どのような主題が追放図書の対象となったのか把握するため該当する主題項目を整理した。

Keywords : purged books, confiscated books, propaganda publications

キーワード : 追放図書, 没収図書, 宣伝用刊行物

1. はじめに

第二次世界大戦の終戦直後、様々な形式で図書の追放が行われた。初期の動きは、藤原明彦が空白の占領期と呼ぶ1945年8月～1946年3月の間に行われた自主的な規制である¹⁾。鹿児島県でも、当時鹿児島県立図書館長であった加治屋哲が1945年9月に思想書類等の取り調べのため視学から来館があったこと、そして同12月に国体の本義、臣道実践等の出版物隠匿が示達されたことを自身の回顧録に記している²⁾。その後、連合国最高司令官総司令部（GHQ）のもとで、1946年3月17日付で指定された10点を皮切りに1948年4月まで7000種を超える図書が没収を指定された。これらは官報や文部省作成の総目録³⁾によれば宣伝用刊行物と称されるが、各地で行われる宣伝用刊行物の没収事務のため作成された島根県立松江図書館の『追放図書一覧』や秋田県社会教育課や京都府教育委員会の『宣伝用刊行物没収図書目録』等の名称から、追放図書や没収図書とも呼ばれていたことが分かる。各地域でこの没収指示にもとづき図書の処分や隠蔽が行われた。鹿児島県立図書館はこの類の図書の焚書を免れた図書館として知られる⁴⁾。同館は宣伝用刊行物に該当する図書の他、独自の規制も加え「追放図書」と名付けてリスト化し、所蔵目録の電算化に切り換えた時期までの規制を経て⁵⁾、現在書庫に所蔵されながら貸出が可能な状態となっている。

2. 本稿の概要

鹿児島県立図書館では「昭和24年1月所蔵資料の歴史的意味を考えて追放図書目録を作成した⁶⁾」と『鹿児島県立図書館史』に記しており、この『追放図書目録』は1949年1月発行として所蔵されている。この目録は本館図書に加え貸出文庫を含めたリストとなっており、当時の選択や処理状況を垣間見ることができる史料といえるが現在の所蔵と必ずしも一致しない。同館では1949年の『追放図書目録』とは別に、現在所蔵している追放図書と多くが重なる1993年発行の『追放図書目録』も所蔵されている。この度、1993年発行『追放図書目録』をもとに同館OPACとの照合を行った。その結果は『図書館学』の第123号にて追放図書の所蔵について現時点で「723件」とし、分類・出版年・著者等・出版社からの特徴等の概要報告を行った⁷⁾。しかしながら、照合結果の詳細まで掲載が至らなかったため、本稿ではその中から分類に焦点を絞って追放図書となった図書の主題項目について確認することで、どのような内容が規制の対象となったのか把握を試みることにした。

3. 追放図書に付与された分類詳細

書庫内に排架された追放図書の請求記号には、分類記号と図書記号、そして追放図書のマークが記されている。分類記

号には『日本十進分類法』(NDC)による分類が付与されていることが分かる。使用している版であるが、多くは新訂8版によると思われるが、同じ主題に対し版によって異なる数字の付与がされているものがあることから新訂7版までの版が一部で使用されていると判断できる。そこで、分類記号と主題項目を整理するにあたり、追放図書に付与された分類記号とNDC新訂8版の項目を照合の中心とした。その際、同じ主題でありながら分類の深さ(桁数)が異なるものもあるため、基本的に第3次区分までの分類をもとに整理した。以下に記す0類から9類までの考察は、文末に掲載した別表と対応するものである。全容としては、723件とした各級の割合について100件を超えた主題は1類、2類、3類であった。一番多いものが3類、次いで2類、1類の順である。なお、件数は現時点で整理をした暫定の数である。

3.1 0類・総記

0類であるものは5件と少ない。041一般論文、049雑著、070新聞が対象となっている。この中には宣伝用刊行物として1946年3月の初回に指定された10点のうちの1点である平田外喜二郎著『戦時新聞読本』(大阪毎日新聞社、1940)が含まれる。

3.2 1類・哲学、宗教

1類は142件である。中でも多いものは、155国体論。詔勅で64件と半数を占める。国体論同様に15倫理学。道徳に区分される内容が多く、159人生訓。教訓、156武士道等も多い。その他、121日本思想も多くなっており、タイトル自体に「日本精神」と含むものが多く、次いで山鹿素行に関連する図書が複数対象となっている。

3.3 2類・歴史、地理、地誌、紀行

2類は172件である。2類で最も多いものは28伝記の87件となり、その中でも289個人伝記が62件と4分の3を占める。個人伝記は乃木希典、山本五十六、大楠公が多く含まれる。288皇室は11件である。次いで21/26歴史の関連は68件であるが、21日本史のうち210.7昭和史が21件と圧倒的に多く、219.9沖縄史は1件のみである。日本以外では222中国史(台湾史、満州史含む)が12件、234ドイツ史が4件と続く。29地理。地誌。紀行の中では、292.2中国、292.4インドネシアの割合が多い。

3.4 3類・社会科学

3類は249件と最も対象となった図書が多く、宣伝用刊行物として没収指定されたものと重なる割合も高い。主題としては、30社会科学一般、31政治、32法律、33経済、35統計、36社会、37教育、38風俗習慣。民族学、39国防。軍事と多岐にわたる。この社会科学では他の類と比較して、30である一般(ないし全般)に該当するものが28件と多く、302政治・経済・社会・文化事情と304社会科学の論文・講演集。社会評論。雑著で二分している。304は17件あるが、そのうち4件は下村海南関連が4件、松岡洋右関連が2件と宣伝用刊行物としての指定が多い名前が目立つ。

3類の半数近くは116件の39国防。軍事である。その中でも390国防。軍事一般が22件、391戦争・戦略・戦術関連が27件と多い。396/398の軍隊関連は42件あるが、397海軍が24件と最も多く、少し間を空けて396陸軍の11件、398空軍の7件と続く。次いで多いのは31政治の44件であり、319外交。国際問題、312政治史・事情の順で多くなっている。他に3類で20件を超える主題は33経済の21件と37教育の24件である。

3.5 4類・自然科学

4類は4件である。453地震学2件、474地衣類が1件となり、498食品。栄養。化学衛生学の1件は額田豊・藤原秋光共著『これで行け』(春陽堂書店、1938)という健康保持と節約生活について扱った一冊である。

3.6 5類・技術

5類は31件である。538飛行機・軍用機が6件、556軍艦(NDC7までの557軍艦含む)が9件、559兵器。軍事工学が7件となる。なお、559の対象件数には現在所蔵されていないが『追放図書目録』には含まれていた福永恭助著『僕の兵器学』(三省堂、1941)も含めた。同書は宣伝用刊行物にも指定されている。

3.7 6類・産業

6類は20件である。中でも農業の割合が高いが、611農業経済関連では食糧問題や農村・農民問題が多くなっている。69通信事業であるが、『電報配達丁程表』が対象となっていた。

3.8 7類・芸術

7類は4件である。756金工芸は日本刀、780体育は体育理論と剣道で1件ずつである。767声楽の1件は北原白秋の『躍進日本の歌』（アルス、1936）である。

3.9 8類・言語

8類は全体のなかでも追放図書となった件数が2件と最も少ない。1件目は『国民詩朗読のために』（日本出版社、1942）であるが、鹿児島県立図書館では2冊所蔵している。うち追放図書となっているものの分類が817.8であり、もう一方は911.5である。タイトル及び内容、他館での分類を比較すると本来の内容は「911」（日本文学＞詩歌）に収めることが適切であろう。2件目は戦後刊行された『和文英文手紙の書き方』（主婦之友社、1949）である。これは、石田忠彦も作業過程で何らかの理由により紛れ込んだものではないかとしている一冊である⁸⁾。したがって、本来8類に該当する追放図書は存在しないと言うことができる。

3.10 9類・文学

9類は94件であり、その多くは日本文学である。908文学叢書（研究叢書・世界文学作品集）に分類されているのは全て石森延男編の『東亜「新満洲文庫」』によるセットのものであり、図書館によって分類が異なるものであろう。同著作を913.8童話に分類している図書館もあり、実際は9類に分類するのであればそちらの方が相応しいだろう。9類以外には、この『東亜「新満洲文庫」』が紅版（尋常一・二・三年用）と緑版（尋常四・五・六年用）に分かれて出されていること、紅版・緑版それぞれ風俗・歴史・地理・理科・文学・修身の6篇で出されていることから9類ではなく3類における教育に分類している図書館もあった。

日本文学では、911詩歌に愛国百人一首関連が複数含まれているが、その影響のせいか1948年に出版された『小倉百人一首』も対象図書に含まれている。その他、時局に合わせた詩集が多い。913小説には桜井忠温の『肉弾』（丁未出版社、1928）や『征人』（主婦之友社、1939）、914評論・小品・随筆には武藤夜舟の『爆弾』（軍事通信社出版部、1940）等の宣伝用刊行物指定関連が含まれる。916ルポルタージュはこの9類で多くを占める従軍記の42件であり、2件を除き日中戦争開戦の1937年頃から急激に増える。918日本文学全集は1件であり、『桜井忠温全集第1巻』である。

日本文学以外では、中国文学、英米文学、フランス文学に1件ずつ対象図書がある。中国小説の1件は劉寒吉著『敵国降伏』（四海書房、1943）であるが、日本語による小説のため本来は923ではなく、913とすべきであろう。つまり、923に該当する追放図書は存在しないことになる。なお、この『敵国降伏』は戦意高揚を狙った歴史小説であり序文には火野葦平による推薦文も記されている。英米小説はフィールディング・エリオット原著『日・米英大戦争』（精文館、1932）である。フランス文学の1件である中島健蔵著『アンドレ・ジード』（筑摩書房、1951）は、950.2フランス文学史・作家論であり、これは戦後の出版でありこれも作業中に紛れ込んだのではないかと評されている⁹⁾。

4. おわりに

今回の調査を通して、追放図書の対象となった図書の大まかな主題傾向を把握することができた。しかしながら、付与された分類には誤って付与したと思われる分類や、複本や同じ主題の図書であっても付与した分類に揺れがあるものが含まれていることが指摘できる。今後追放図書となった主題について正確に把握するためには、およそ700件ある追放図書を一貫した方針で分類記号を捉え直した検証が求められる。そして、今回は鹿児島県立図書館で付与されている分類をもとに件数を整理し、追放図書の対象を723件としたが、追放図書の対象件数は捉え方によって変動する。より実数に近い件数を示すことができるよう対象図書リストの整理を継続する必要がある。

脚注・引用文献

- 1) 藤原明彦著「占領期における出版物没収と図書館」『図書館研究シリーズ』(32): 1995.3 p58-82
- 2) 加治屋哲著『加治屋哲回顧録』加治屋哲回顧録刊行会 1967 p127, p157

- 3) 文部省社会教育局編『連合国軍総司令部から没収を命ぜられた宣伝用刊行物総目録：五十音順』文部省社会教育局 1949
- 4) 椋鳩十著『椋鳩十の本 第25巻』理論社 1983 p255-258
- 5) 鹿児島県立図書館ホームページ掲載の「6 沿革について」(<https://www.library.pref.kagoshima.jp/honkan/p319>) 最終アクセス 2023.11.23) では1992年に追放図書公開, 読売新聞記事(「保存されてきた「追放図書」: 鹿児島県立図書館の839冊」2007.10.29) では1994年頃まで規制が続いたとされる
- 6) 鹿児島県立図書館編『鹿児島県立図書館史』鹿児島県立図書館 1990 p72-73
- 7) 川戸理恵子著「「追放図書」にみる戦後公共図書館で追放された図書」『図書館学』(123): 2003.9 p17-25
- 8) 石田忠彦述「占領軍による図書没収の周辺」『シンポジウム被占領下の国語教育と文学: プランゲ文庫所蔵資料から』2009 p11
- 9) 同上

(2023年11月24日 受領／2023年12月7日 受理)

(別表) 追放図書の対象となった分類記号とその主題項目一覧

注1) 分類記号は第4次区分以上に分類されていても、第3次区分までの数字を記した

注2) 主題項目はNDC8を参照したが、明らかにNDC7までの分類である557はNDC7を参照とし斜体で記した

注3) 主題項目は項目の上下関係が分かりやすいよう、下位項目であるものは上位項目>下位項目と記した

分類記号			主題項目
第1次区分	第2次区分	第3次区分	
0類	04	041	一般論文・講演集>日本語
		049	雑著
	07	070	ジャーナリズム,新聞
1類	11	113	哲学各論>人生観,世界観
	12	121	東洋思想>日本思想
		124	東洋思想>先秦思想,諸子哲学>儒家,儒教
	14	143	心理学>発達心理学>民族心理学
	15	150	倫理学,道徳
		152	倫理学,道徳>家庭・性倫理(孝道)
		154	倫理学,道徳>社会倫理
		155	倫理学,道徳>国体論,詔勅
		156	倫理学,道徳>武士道
		157	倫理学,道徳>報徳教,石門心学
		158	倫理学,道徳>その他の特定主題
	159	倫理学,道徳>人生訓・教訓	
17	175	神道>神道,神職	
18	188	仏教>各宗	
2類	21	210	日本史
		219	日本史>九州地方(沖縄)
	22	220	アジア,東洋史
		222	アジア,東洋史>中国
		223	アジア,東洋史>東南アジア
		224	アジア,東洋史>インドネシア
		225	アジア,東洋史>インド
	23	230	ヨーロッパ史,西洋史
		234	ヨーロッパ史,西洋史>ドイツ,中欧
		238	ヨーロッパ史,西洋史>ロシア,北欧
	26	260	南アメリカ史
	28	280	伝記
		281	伝記>日本
		288	伝記>系譜,家史,皇室
289		伝記>個人伝記	
29	290	地理,地誌,紀行	
	291	地理,地誌,紀行>日本	
	292	地理,地誌,紀行>アジア	
3類	30	302	社会科学>政治・経済・社会・文化事情
		304	社会科学>論文・講演集,社会評論,雑著
	31	310	政治
		311	政治>政治学,政治思想
		312	政治>政治史・事情
		313	政治>政治の形態,政治体制
		316	政治>国家と個人・宗教・民族
		317	政治>行政
		319	政治>外交,国際問題
	32	321	法律>法学,法哲学
		323	法律>憲法,行政法
	33	330	経済
		332	経済>経済史・事情,経済体制
		333	経済>経済政策,国際経済
		334	経済>人口,土地,資源
		337	経済>貨幣,通貨,物価
	35	358	統計>人口統計,国勢調査
	36	361	社会>社会学
		365	社会>生活・消費者問題
366		社会>労働経済,労働問題	
367		社会>家庭・性問題	

分類記号			主題項目
第1次区分	第2次区分	第3次区分	
3類	37	370	教育
		371	教育>教育学.教育思想
		372	教育>教育史・事情
		375	教育>教育課程.学習指導.教科別教育
		376	教育>幼児・初等・中等教育
		377	教育>大学.高等・専門教育.学術行政
		379	教育>社会教育
	38	382	風俗習慣.民俗学>風俗史.民族誌
		387	風俗習慣.民俗学>民間信仰.迷信
	39	390	国防.軍事
		391	国防.軍事>戦争.戦略.戦術
		392	国防.軍事>国防史・事情.軍事史・事情
		393	国防.軍事>国防政策・行政・法令
		394	国防.軍事>軍事医学.兵食
395		国防.軍事>軍事施設.軍需品	
396		国防.軍事>陸軍	
397		国防.軍事>海軍	
398	国防.軍事>空軍		
399	国防.軍事>古代兵法.軍学		
4類	45	453	地球科学.地学.地質>地震学
	47	474	植物学>藻類と菌類
	49	498	医学>衛生学.公衆衛生.法医学
5類	50	507	技術.工学>研究・指導法.技術教育.特許
		509	技術.工学>工業.工業経済
	51	511	建築工学.土木工学>土木力学.建設材料
	52	521	建築学>日本の建築
	53	538	機械工学>航空宇宙工学
	55	550	海洋工学.船舶工学
		556	海洋工学.船舶工学>各種の船舶.艦艇(軍艦)
		557	海洋工学>軍艦 ※NDC7
		559	兵器.軍事工学
	56	560	金属工学.鉱山工学
	58	588	製造工業>食品工業
598		家政学.生活科学>家庭衛生	
59	599	家政学.生活科学>育児	
6類	60	601	産業>産業政策・行政.産業開発
		602	産業>産業史・事情.物産史
		604	産業>論文・講演集.評論.雑著
	61	610	農業
		611	農業>農業経済・行政・経営
		612	農業>農業史・事情
	64	645	畜産業>家畜各論
	66	664	水産業>漁撈.漁業各論
		667	水産業>水産製造.水産加工
	67	678	商業>貿易
68	686	運輸.交通>鉄道	
69	694	通信事業>電気通信事業	
7類	75	756	工芸>金工芸
	76	767	音楽>声楽
	78	780	スポーツ.体育
789		スポーツ.体育>武道	
8類	81	816	日本語>作文.文体
		817	日本語>読本.解釈.会話
9類	90	908	文学>叢書.合集
	91	911	日本文学>詩歌
		913	日本文学>小説.物語
		914	日本文学>評論.小品.随筆
		916	日本文学>ルポルターージュ
		918	日本文学>作品集
	92	923	中国文学>小説
	93	933	英米文学>小説
95	950	フランス文学(フランス文学史)	